

2022年1月28日

2021年度聖路加国際大学大学院
看護学研究科課題研究

地域で暮らす再入院リスクのある高齢の循環器疾患を抱える人に対する多職種連携における保健師に期待する役割に関する質的研究

A Qualitative Study on the Expect Role of public Health Nurse Support for Elderly People with Cardiovascular Disease at Risk of Hospital Readmission

学籍番号 20MN023

氏名 長谷川未帆

要旨

20MN023 長谷川未帆

目的 地域で暮らす再入院リスクのある高齢の循環器疾患を抱える人に対する多職種連携を含む支援の経験がある職種へのインタビューを通して、多職種連携において保健師に期待する役割と現状多職種連携において課題に感じている事を知り、今後保健師に期待する役割を考察する。

方法 地域で暮らす再入院リスクのある高齢の循環器疾患を抱える人に対する多職種連携を含む支援の経験のある看護師4名、その他専門職としてソーシャルワーカー2名、介護支援専門員2名の8名を対象とし、半構造化インタビューを行い、質的記述的方法を用いて分析した。

なお、本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を受けて実施した[21-A046]。

結果 地域で暮らす再入院リスクのある高齢の循環器疾患を抱える人に対する多職種連携において保健師に期待する役割と多職種連携において課題に感じることが抽出された。保健師に期待する役割としては、【循環器疾患を抱える人と暮らす家族が抱える困難や不安への支援】【保健師の役割を認知してもらえるよう発信し、他職種が相談しやすくなるような関係作りの構築】【循環器疾患の人を支える為の新しいサービスやケアシステムの構築】【健康寿命延伸に向け、より日常生活に踏みこんだ予防的な関わり】【医療・看護・地域で生活するという包括的な角度で、課題解決に向けた協働実践】の5つのカテゴリが抽出された。循環器疾患を抱える人に対して多職種連携において課題に感じることについては、【心不全悪化予防に向けた生活指導の内容を、実際の生活に結びつけにくい】【職種間で効果的に情報共有することへの困難がある】【支援が必要な心不全患者に社会資源を導入することが難しい】の3つのカテゴリが抽出された。

結論 地域で暮らす再入院リスクのある高齢の循環器疾患を抱える人に対する多職種連携における保健師に期待する役割として、家族が抱える困難や不安への支援、そして本人が再入院とならないように家族にも悪化予防に向けた関わりをすることが期待された。また、地域で暮らす再入院リスクのある高齢の循環器疾患を抱える人を包括的に支える為に患者会の設置や、事業企画等、新たなサービスやケアシステムの構築をすることが期待された。他職種は保健師の役割、まずは保健師の役割を他職種に認識してもらえるように発信し、相談しやすくなるような関係作りの為の発信や体制作りが期待された。実践への示唆として、保健師が役割を担う全ての対象に対して、医療・看護・地域で生活するという包括的な角度が期待されており、病期に関わらず予防的な関わりや、看看連携の場を設ける等の活動が出来ると考えられた。循環器疾患のなかでも心不全の患者に対する実践が期待されており心不全に特化したケアシステムの構築や循環器疾患を抱えながら働く高齢期の人に対する事業場の産業保健師との連携等が実践への示唆として得られた。